

## 会議の概要

会議名	宝塚市食育推進会議 第5回 会議
開催日時	平成23年(2011年)2月17日(木) 午後2時～午後4時15分
開催場所	宝塚市役所3階 3-3会議室
出席委員	委員15名 保田委員、山下委員、嶋津委員、藤田委員、松本委員、岡本委員、中野委員、林委員、藤野委員、山本委員、和田委員、井上委員、奥村委員、北井委員、皆木委員、
欠席委員	委員 4 名 北山委員、中村委員、松田委員、藪内委員、
傍聴者数	2 名
公開の可否	公開
	<p>1 報告</p> <p>報告1 宝塚市食育推進会議 第4回会議 議事録について 議事録の内容確認。 特に修正なく、委員から了解をいただく。</p> <p>報告2 宝塚市食育推進計画 素案修正(第4回会議後)について 第4回の会議以降いただいた御意見を修正して、パブリックコメントを行った。 改めての確認として、修正点について事務局より報告。</p> <p>2 議事</p> <p>議事1 パブリックコメントにおける意見の取扱いについて (会長) 前回の会議でほとんど結論めいたところまで、お話をいただいている。通常の会議上では一事不再議という原則があり、一度決定したことは守っていこうというルールがある。 しかし最近では、パブリックコメントで広く市民の意見を聞くという手続きを国も行うようになってきており、それが1つのやり方となってきた。 そのような意見を踏まえながら、最終的な御意見を確認してまとめていきたいと思う。 繰り返しの論議が出ることもあるが、御了解いただきたい。 それでは、市民の御意見について事務局、御紹介お願いします。</p> <p>(事務局) 資料P23以降に、氏名や住所は抜いた上で、パブリックコメントでいただいた御意見をそのまま掲載し委員の皆様へ御配りした。 この御意見すべて読み上げるのは時間もかかり、効率的ではないと考え、事務局で、市民からいただいた御意見5人分を要約し、16項目に整理した。市の考え方と併せて説明させていただきたい。 －整理した内容について、事務局より説明－</p>

(会長)

市民から5名、16項目の御意見が寄せられた。

私も農林水産省の委員をしていた。そこでは全国から御意見をいただくため、パブリックコメントも多く寄せられた。そのため、御意見に対する説明も、素っ気無かった。そのような回答でパブリックコメントの意味があるのかと思う程、簡単な回答であった。

宝塚市のパブリックコメントに対する説明は極めて丁寧である。関心しながら拝聴していた。

おおよそ結論は、前回の討議で出していたが、そのことを思い出していただきながら、新たな御意見が加えられたと読めるか否か、そのあたりを斟酌いただきながら、この計画の全体をもう一度思い出していただき御発言をいただきたい。

市民の皆様から新たな御意見をいただき、我々が気付かなかった部分や付け加える部分がなかったか御発言いただきたい。

事務局の方では、おおよそ計画に盛り込まれているのではないかという対応の説明をいただいた。

A委員、何かありますか。

(委員)

特にありません。

(委員)

思っていた通りの御回答であった。地図は良かったと思う。

(事務局)

地図の見方についての説明

(委員)

パブリックコメントを読ませていただき、年代はわからないが、多くの方が給食にこだわっていることを改めて知り、逆に自分自身びっくりした。

いただいた御意見の中に西谷の米を給食に使うって欲しいという意見があった。

私が以前から気になっていた「市民が西谷地域のことを知らない」ということがここに凝縮されていると思った。

西谷農家数の減少や耕作面積のことは記載されているが、西谷で取れる米の収穫量や出荷先について、市民は知っているのか。私も全体は把握していない。

西谷の米を給食で使って欲しいと言っているが、現在給食では、どこの米をどれだけ使用し、そこへどのように西谷の米を入れていくことができるのか、その様なことを市民はわかっているようでわかっていない。西谷のことを夢見がちに捉えていると考える。

計画に耕作面積や農家数があるのなら、農政課であれば米の総量は把握しているはずである。そのことと照らし合わせた時、具体的に可能なことなのか、農政面からこの答えが出ているのか、私にはそのことが反映されているとは思わなかった。

まずはその点を聞きたい。

(会長)

西谷でどのくらい供給余力があるかどうかということか。

(委員)

市民が西谷の米を使って欲しいと思っけていても、実際それほど米は無いかもしれない。

その様なバランス的なことを示したグラフがない。農政課ではないため、ここには関係ないと言われてしまえばそれまでであるが、このような質問が出ることから考えると、野菜だけでなく米も子どもたちへ食べさせたいという気持ちの現われなのではないか。

それに応えるためには、農政からの一言があったほうが良いと考える。「一部であれば提供できます」と言った、具体的なことを出せるのか聞きたい。

(事務局)

詳細資料が手元に無いためおおよその数値となるが、西谷では、約150ha稲作を行っており、1反当たり約470kg収穫できるとすると、全体で約760t収穫されている。ただ、ほとんどが自主流通米でありJAへ出しているのは年間約100tである。JAへ出ている量の、どれだけを給食へ回せるかは、今わからない。後は価格的な問題で給食へ使っていけるのか決まる。

(委員)

給食に使われる米は、どのくらいの量なのか。

(事務局)

手持ち資料がないため、使われている米の量はわからないが、米はすべて兵庫県産米を使用している。

(委員)

西谷の方は実際作られていてどう思われているのか。

(委員)

以前は、米を作るとすべてJAへ供出しなければならなかったが、今は自由米となり、採算も考え、小売り価格で個人に販売することが増え、JAへ出す量は減っていると思う。

給食で西谷米を使うには、単価の問題があると思う。生産者も厳しい状況にある。給食が高値で米を買うのならば、JAへ出すと思う。

(会長)

「西谷」だけで考えても、市民の皆さんが食べるだけの量はない。

ここで考えるとすれば、せめて1日くらい皆で食べようという日が設定できれば上出来と考える。

私の郷の豊岡では、月に1回地元の米を全小学生が給食で食べるということをして市長が決断した。そのような食べ方だけでも地元の理解を深めることができる。

西谷で、月1回でも米は足りないのではないか。年に1回くらいしかないのではないか。それも1つの象徴である。可能ならば実施すればよいと考える。

(委員)

今の話が本当の答えだと思う。できるかできないかは別として、そのような声を、この計画の中に、載せてもらいたい。

事実を知らせることが重要ではないか。そこから、市民が西谷の現状を知り、それならどのようにすれば良いかという具体案が挙がってくるのではないかと考える。

本音話で、「お金が合えば売ることができる」ということでも、私としては良いと考える。

本当のことを市民に知らせたいと思う。

「今皆さんは兵庫県のご飯を食べています。その中の1日は西谷のご飯を食べられるようにしていきます。」という言葉があれば、どちらもが良いのではないかと思う。

(事務局)

県の学校給食総合センターから兵庫県産米を入れている。

日にちは限られるが、その総合センターと西谷の米を入れていくということを協議中である。このことは、農政部門と近々話をする予定で進めているところである。野菜も少し入れる予定をしており、その日は「西谷の日」という形で実現できればと現在少し考えている。

(会長)

それは良いと考える。ぜひ計画に盛り込んでいただきたい。

(委員)

小さなことから何回も行えば、目に留まるのではないか。夢見がちなことを言わず、現実に沿って一歩ずつというものがあればいいなと思う。

(会長)

少し言葉を変えて、「西谷の日のようなものを作る」ことに努力をするぐらいのことを謳っていただきたい。

(事務局)

県の総合センターとの協議はしているが、農政課との協議はまだできていない。

(委員)

兵庫県米を、総合センターへ入れているのは、JAを通じてなのか。

(会長)

農協経済連を通じてである。

(事務局)

給食で西谷米や西谷野菜を使った西谷の日を作るという内容を入れられないかという点であるが、計画案P49「地産地消の推進」という項目を掲げている。中段辺りには、地産地消ということを経験現場でも推進していきたいという思いの中、学校の立場ではなく、生産者の立場から、「小学生や中学生の給食に「西谷野菜」や「西谷産米」の供給の推進を図り、地域の食材と旬の味を提供します。」と表現している。また、学校側の立場からは、P37「生きた教材」として、一番下の部分に、「西谷産の食材を活用した地産地消の取り組みの推進」と両面で言葉を挙げているということが、この計画の1つの考え方である。

これ以上の表現と解釈するのかそのあたりを確認させていただきたい。

(委員)

できれば、これ以上の表現を求めます。

なぜならば、この表現ではわかりにくかったため、このような質問が出たのではないかと考える。先ほどの1反当たりの収穫量等のことが理解できていれば、このような質問は出なかったはずである。

できれば、20年度、21年度、西谷ではこれだけ米が取れたと、いう程度のことは記載してもいいのではないか。西谷ではこれだけの生産量があると記載してあればもっと具体的になるのではないか。

具体的なことを入れにくいことは理解できるが、現実の収穫量は入れられるはずである。

(会長)

まだ地元も市も、具体的な方針が決まっていない。

農業というものは、ある程度方針が決まり、農家がやる気になればいくらでも面積は増えるものである。

今、面積が少ないことを前提に話していても仕方がない。

ここは方針を謳えばよい。方針も決まっていない時点で面積が少ないと謳っても仕方ないと思う。

説明があったように、「やりたいと」お答えいただいたわけであるから、がっかりする必要はないと考える。

このことは書いてあるのですね。

(事務局)

給食では、週3回で、約153t使用している。

(委員)

少しがんばれば、使用できるのではないか。

(委員)

それならば、今でも完全に使用できるのではないか。

(会長)

西谷の方が、すべて学校給食の値段で売ってくれるのであれば使用できる。

(委員)

あと60tくらいあればいいということなのですよ。

(事務局)

どこへ出すかという話である。

(委員)

そのような数字を初めて聞き、とても新鮮だと思った。今までそのようなことを聞かなかったが、必要なことと思う。

(委員)

単純に、保護者は、西谷で農業をしているのであれば、そこで取れるものを給食で使えばよいという思いでここへも出てきていると思う。

皆が単純にそのような発想を持っていると思う。

今初めて、収穫量や、給食における必要量を聞き、がんばればできるのではないかと思った。

西谷では作り手が減少している中であっても、がんばって作って欲しいと懇願すれば、西谷の人はがんばっていくのか。

(委員)

学校給食が農協に話をし、「この時期に大根100kg入れてください。」  
というのであれば、農協が皆に説明すれば、作付けできるかもしれない。  
今はそのようなシステムがない。

(委員)

そのような流れができれば、可能なのか。

(委員)

今学校給食では西谷の玉ねぎを使用している。

自分自身が野菜を作っているわけではないが、玉ねぎの生産者に聞くと、  
玉ねぎも規格が厳しいとのこと。手で切るわけではなく、機械にかけて  
切るため、大きさ等の規格が厳しい上、値段も高いわけではないため、  
出す人は減っている感じもする。

(委員)

今日量販店のチラシに西谷の中西さんが作った野菜が地産地消を謳って  
掲載されていた。具体的に写真も載っていた。時代は変わったと思った。

(委員)

最近は、様々な店舗に西谷野菜を出している。だいぶ名前も売れてきた  
のではないかと考えている。

(委員)

ブランドになってきたのではないか。

(委員)

会長が一番初めに「宝塚らしい食育をやりましょう」と言われていた。  
その時、皆もそうしましょうと言っていた。

地産地消というきれいな言葉ではなく、もっと西谷の人の声を生かした  
言葉、例えば「一緒に増やす努力をしましょう」「皆で一緒にしましょう」  
という声が弱いと考える。

保護者の方、市民の方、ちゃんと目を向けてくださいという言葉のかけ  
方が弱いと感じる。

これからやろうとしていることを、私は市民として後押ししたいと考  
えている。農にこだわるざるを得ない点はそこである。

(会長)

意欲的な御発言をいただいている。

その意欲的な御発言を無為にするわけではないため、どのように計画  
に取り入れていくのかが、課題である。

事務局としてはおおよそ盛り込んでいるという話であったが、足りない  
ということであれば、どのような文言で取り入れていくか、具体的にご発  
言いただきたい。

私は、おおよそのことは記載されていると思われるが足りないか。

(委員)

足りないと思う。農政課の方はどう思うか。

(事務局)

この計画の中には、西谷の農業者育成の話や、交流をどのように進め  
るか、地産地消の話、生産者側の話も盛り込んでおり、かなり委員の御  
意見を取り入れたのではないかと考えている。

(委員)

宝塚市には西谷しか残っていない。  
市民がどのように関わっていくかである。

(事務局)

まさに今かかわっていただいている。またこれから実施していく段階でもかかわっていただくことになる。

来年度であれば、農業者とのサポート事業、今年度から実施しているものであれば、農業者と消費者との交流事業なども行っている。

それぞれの事業の中では十分かかわっている。

(会長)

西谷とのかかわりは、学校給食だけではない。

宝塚市民が本当にかかわるのであれば、朝食から西谷の米をしっかりと食べなければならないという話しになる。

かかわり方はたくさんあると考える。

学校給食だけが、かかわりのすべての様になっているが、幅広く考えた方が良く考える。

(委員)

給食だけのことを言っているわけではない。

(会長)

しかし150tというようなことは、すべて給食の話である。

(委員)

とりあえず、ここに書かれていたため給食のことを言っただけである。

市民の目を向ける意味で、具体的な数値をこの計画の中に載せていただきたい。

(委員)

実現できるのかは、わからないが、計画書に「この会議を終えて」というようなページを作り、その中で、「給食には153tの米が使われていることを初めて知ることができ良かった」等つぶやきではないが、この会議に出席して良かった等のコメントを書くページを作り、皆の気持ちを入れ込めれば良いと思った。

(会長)

計画書であるため、難しいかもしれない。

(委員)

数量については大事なことであるが、この計画へ盛り込んでも、毎年変わるものである。もっと一般の市民に周知してもらおうという意味から、広報に載せるのはダメなのか。そのような方法もあると思う。

以前から学校を回っているという話をしていたと思うが、そこで必ず子どもたちに西谷を知っているか聞いている。心配しなくとも皆知っていると答える。「西谷ってどのようなところ」と聞くと、「田んぼや畑があり、食べ物が取れる所」と子どもたちはみんな言ってくれる。

子どもにはおおよそ浸透している。料理教室を実施する際にも野菜は西谷野菜であることを必ず教えるようにしている。子どもの方が理解あると考える。

大人にはわかっていないのかもしれないが、子どもへは少しずつ理解されていると思う。

(事務局)

「西谷の野菜や米の数量を盛り込んで欲しい」という提案についての回答であるが、現在平行して農業振興計画を策定している。そちらで盛り込んでいくために、分析している最中である。

そちらで、農業振興の視点から、食育も絡めて表記したほうが良いと考える。

(事務局)

計画素案P3の「たからづか食育推進計画の位置づけ」の中に本計画と連動していることが記載されている。

(会長)

農業振興計画は農業振興計画で検討してもらえばよい。

これは食育の推進計画である。市民がどのように協力できるかという点を強調して計画を作っていただければよいと考える。

(委員)

宝塚市の現状がよくわからないという質問だと思う。

計画の第2章(P5)の宝塚市の概況には、人口密度等が書かれているだけである。参考資料に宝塚の農産物や生産量等を入れてもらうと良いと考える。詳しい内容は知らない。統計的に宝塚の産業ということで、農産物だけを記載するのが良いかはわからないが、そのようなものを入れていただければと思う。

(会長)

事務局で検討していただきたい。

農家は西谷だけではないので、そのような方々を無視するわけではないが、おおよその西谷農業概要のようなものを検討していただきたい。

この計画書は、網羅的なものであるため、幅広く記載されている。

ある所だけ細かく書くと、バランスを欠く計画書になり兼ねない。やや抽象的ではあるが、網羅的な計画を意欲的に策定した後、この計画をどう実現していくか、各種団体のこの計画に対する参加意欲を募るような今後の各種団体の取り組みに期待する。お願いしたい。

各種団体には、この計画に基づいて、取り組んでもらいたい。学校教諭にもお願いして給食に反映できるよう、また事業の中で生かしていただけるような食育に取り組んでもらいたい。

市には、この計画ができた後、関係機関にこの計画書を渡し、各種団体が取り組んでいけるような要請を、していただきたい。

作りっぱなしにならないようにアフターケアに力を入れていただきたい。そうすれば、今日いただいた御意見が少しは形になっていくのではないかと考える。そのようなアフターケアを市は行うのか。

(事務局)

行います。

(会長)

今後も宝塚へは来る機会があるため、関係機関の方に、この計画に基づいて推進して欲しいとお願いをしてみたいと思う。

県下のあちこちの食育推進計画をみているが、宝塚の計画はなかなか良いと思っている。

他の委員会は形だけで終わっていることが多い。ここは随分審議していただいていると思う。良い計画書だと思う。

今皆様に御語りしたのは、

- ・計画ができた後、ほったらかしにしない。
- ・行政も各種団体へ協力要請を行っていく。
- ・委員の方もこの計画が形あるものになるよう御尽力いただくことを心がける。

そのような形で、この計画書を生かすという決意をもっていただいた上で、御承認いただけたら良いと思う。

他に意見あるか。

(委員)

いいのではないかと思う。

(委員)

現状の問題として、給食費を払っているのか等、お金の面の問題も残念ながらあることも忘れてはならないと思う。

(委員)

子どもが生まれてから、毎週西谷に買物へ行くようになった。

子どもには新鮮な野菜、ピーマンやにんじん、何でも食べる努力をさせている。

この計画が、親と子どもの関係の教科書になればよいなと思う。

(委員)

給食にも関係している企業の人間であるため、食育は重要だと思う。

子どもの幸せのための食育といいながら始まっていたが、結果的には、ファーストフードが流行る悲しい現状にある。

母親が手作りで料理したものを食べさせるための指針になってもらえれば良いと思っている。

(委員)

グループホームで昼食のボランティアをしている。

そこでは西谷の米や野菜を使っていると聞いている。

どのようなところから入荷しているのか聞いたところ、個人農家とのことだった。何故かと聞くと、価格の問題だといわれた。

今日の話と繋がってやっとその意味が理解できた。良いお話が聞けたと思う。

(会長)

多くは農協関係で流れているが、今は規制緩和が政治の柱になっている。農業関係の規制も取りはらわれ、米も自由に販売できるようになった。

宝塚市民は、西谷だけでは暮らせない。

逆に但馬は、但馬市民が少ないため、但馬の農家を支えられない。

是非、宝塚の皆さんも但馬の農家を支えて欲しい。農村部と都市部との連帯があり社会は成り立っている。

但馬の人間として話を聞いていると、西谷の人間は幸せだと思う。

但馬は支えてくれる人間が少ないため、頑張らざるを得ない。

時々西谷へ行くことがあるが、頑張っているとは思いますが、但馬に比べると西谷の人は、頑張っていないと感じる。

但馬の人間に比べると、悪いですが、農業で生活しようという気持ちは希薄であると感じる。

そのあたり、「頑張って」と声かけした方がよいかもかもしれない。

(委員)

資料P4 No.4の意見について

「食育推進の展開として、栄養士・保護者・教師による米飯の勉強が必要」の意見について「米飯の他にも良い食品が多くありますので、バランスよく食べることが大切と考えています。」と回答されているが、変につっこまれるのではないか。他の良い食品とは何か教えて欲しい。

(事務局)

米飯だけでなく、人の身体は、バランスよく食べることが大切である。

米飯だけがとは言いにくいところがあり、他の食品もバランスよくとらなければならないということで、この表現にした。

(会長)

解釈の問題である。

米飯を飯だけと捉えると今のような回答となる。

(委員)

微妙な表現である。

(委員)

考え方であって、この計画へ盛り込むわけではない。

市の方はこのように考えたため、計画案には盛り込まず、このままでいきますという我々に対する説明であるため、このままでよいのではないかと考える。

米飯の勉強会を開催するというのを計画案に盛り込むことの方がむしろ問題ではないか。

(事務局)

米飯だけの勉強会は考えていないため、このように記載した。

(委員)

米飯も含めた食品の勉強会は必要と思う。

(委員)

この回答は市の考え方だけのことであって答申にはでない。

(会長)

パブリックコメントに対する回答の文言はそのまま計画に盛り込まれるわけではない。本人に対する答えである。

これでいいですね。

(委員)

ご飯のことを知りたい人が、教師や保護者に勉強してほしいと思って記載した言葉ではないかと思った。それに対しての答えとしては、どうなのかと思っただけである。

私としては、パンもあるからなのかと言いそうになった。それだけのことである。

(会長)

いろいろな立場があると思うが、実際には、ご飯の大切さをもう少し勉強した方がいいと思う。

(委員)

パブリックコメントの回答は、いただいた方にお返すのか。

(事務局)

個別に回答するルールは無い。

ホームページに掲載するという考え方で行う予定である。

(会長)

そろそろ結論を出しても良いか。

(委員)

はい

(会長)

事務局、整理してください。

学校給食の指摘についてはどのようにしますか。

すでに盛り込んでいるとするか、もう少し具体的に、今後の課題としていろいろな関係機関で実現に努力するという文言を加えるか。

農業関係の参考資料をつけることは良いか。農業振興計画の資料をこちらへもらっても良いのではないか。

(事務局)

2010年は、公表されていない。2005年のデータになってしまい、データ的には古くなる。

(委員)

前回の資料でも良い。有るのと無いのとでは、違う。西谷のことが書いてあるのだから、市民としては知りたい。

(会長)

検討してください。

委員の方に最終的に御承認いただきますが、概ね今の回答の内容で計画書には盛り込まれているつもりであるため、計画書のままでいきたいというのが事務局の皆さんに対する原案となるが、これで御言い分ないでしょうか。承認いただけますか。

最後ですので、もう一度議案を整理し、挙手で決定します。

地図は付ける。参考資料を付ける。文言の御注文やパブリックコメントの御意見も16項目ありましたが、おおよそ盛り込んでいるつもりであるという事務局のご説明がありましたので、前回お決めいただいた、第4回の結論を最終的な推進計画書(案)として決定させていただきたいということをご諮りいただきますがよろしいでしょうか。

(委員)

はい

(会長)

賛同いただける方は挙手願います。

(委員)

全員挙手

(会長)

全員御承認いただいたということで、推進計画書は、皆さんの御承認のもと、決定させていただきました。

御協力ありがとうございました。

### 3 平成23年度 食育推進事業の取り組み(案)について 平成23年度 食育事業の実施予定について

— 事務局より説明 —

(会長)

一応、私の方でお預かりした案件と報告は終わりました。  
最後に副会長から、最後の締めのご挨拶をお願いします。

(副会長)

あいさつ

(会長)

私からも御礼申し上げて終わりとさせていただきます。  
ありがとうございました。

<市長への答申>

(事務局)

それでは、保田会長より市長に、答申書をお渡しいただきます。

(会長)

お忙しいところありがとうございます。

委員の皆様には力を入れて審議いただいた。他市に比べても良い計画書ができたのではないかと考えている。

自信を持ってお渡ししたいと思う。

3点だけお願いをしてお渡ししたいと思う。

- 1 ① 西谷産の食材をできるだけ学校給食に取り込んで欲しい
- ② 米飯給食の回数を増やすように御検討いただきたい
- ③ 自校炊飯は是非守って欲しい

※ 学校給食に関しては、随分力を入れて論議いただいた

- 2 市民の啓発に力を入れていただきたい

- 3 具体化の取り組みを是非御検討いただきたい

以上のことをお願いして、委員の皆様の前でお渡ししたいと思う。

(市長)

ありがとうございました。

今後とも委員の皆様の御力を御借りしなければ、実現はしないと思う。

この計画と3つのお願いに関しては、前向きに頑張りたいと思う。

本当に皆様ありがとうございました。

(事務局)

委員の皆様、ありがとうございました。

次年度もよろしくお願いいたします。

4 閉会